

算額は、江戸時代に和算の問題が解けたことを感謝して額や絵馬にその問題や解法を書き、神社や仏閣に奉納したことに始まり、ほぼ全国的に広く行われてきた。

現存する最古の算額は栃木県佐野市の星宮神社にあり、1683年(天和3年)に村山庄兵衛吉重という人物が奉納したものである。

やがて人びとの集まる神社仏閣を発表の場として問題だけを書いて解答を求めるものや競ってさらなる難問を書いた算額もあらわれた。

となり町の野木神社にも算額が残されていることを知り、調査に行った。



野木神社 (毎年フクロウのヒナが孵ることで知られている)



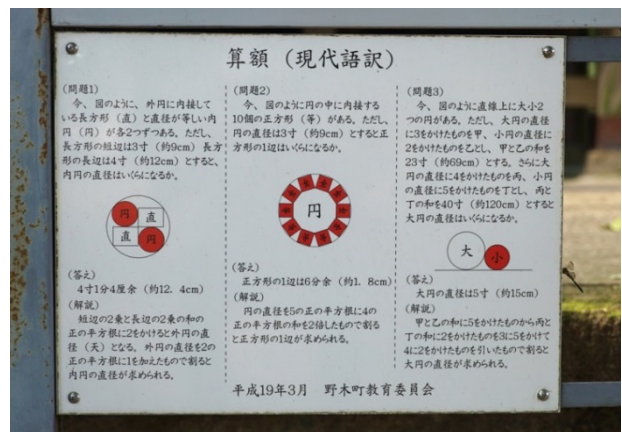
算額を説明する掲示板

明治22年に、我が町間々田に在住した「最上流」の和算学者・根岸林左エ門安章の門下生で野木在住の野鳥勝次正行により奉納されたものである。

「最上流」とは和算の流派で、創始者は山形出身の和算家・会田安明。彼は江戸の水利事業などに貢献している。



野木神社の算額 (ホームページより)



問題と解答 (問題2の解は近似計算のようだ)

算額は今も続いており、神田明神では毎年コンクールが行われている。

郷土の和算学者・根岸林左エ門安章にあやかって算額を作成、いつまでもボケないことを祈念して奉納してきました。

この2枚の算額は昔習った代数幾何の思い出しながら何とか解いた問題です。



奉納した2枚 (右下)